

インターバンクの声（2015年3月4日）

外国為替を生業とするディーラーだけでなく、外国為替を取引の中心とする個人投資家の方々も、為替市場以上に株式市場や債券市場の値動きが気になる日があるはずだ。昨日はアジア時間にオーストラリア準備銀行（中央銀行・RBA）の理事会があったものの、欧米市場では目立った経済指標の発表もなく、ニューヨーク市場のダウ平均が一体どこまで上昇するのかに注目した方も多かったに違いない。目立った経済指標がなかったと言い切ってしまったが、かつては注目指標の一つだった米自動車販売の発表があり、原油価格の下落を追い風に伸びていた数字が伸び悩んだこともダウ下落の一因になったようだ。さらにハイテクやヘルスケア銘柄の売りが下落幅を広げた。こうしたダウ平均の下落が顕著となる日には、一時期ドル円相場も値下がりするケースが多かったが、最近ドルが値下がりするとは限らない。安倍首相のアドバイザーである本田内閣官房参与が、ウォール・ストリート・ジャーナル紙とのインタビューで最近のドル円が適正なドル円価格の上限にあるとの見解を述べたようだが、それほどの大きなインパクトはなかったようだ。週半ばになった今日の東京も為替市場より株式市場に目が行ってしまいそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。